

平成26年度 人体構造学 (マクロコース) 総括試験 (千田隆夫)

平成26年6月20日 (金)

【1】 次の各問の答を、 a～e の中から1つ選べ。

①末梢神経に含まれないのはどれか。

- a. 神経上膜 b. 神経節 c. 神経核 d. 神経線維束 e. 神経周膜

②心臓にあるのはどれか。

- a. Purkinje 線維 b. Vater 乳頭 c. Bauhin 弁 d. Treiz 靱帯 e. Waldeyer 輪

③肝臓に結合していないのはどれか。

- a. 冠状間膜 b. 小網 c. 鎌状間膜 d. 大網 e. 三角間膜

④鼓室内に見られないのはどれか。

- a. キヌタ骨 b. 鼓索神経 c. 鼓膜張筋 d. 粘膜 e. 卵形嚢

⑤乳房から出るリンパが流入する主たるリンパ節はどれか。

- a. 鎖骨上リンパ節 b. 兎径リンパ節 c. 腋窩リンパ節 d. 肺門リンパ節
e. 深頸リンパ節

【2】 次の各問の答を、 a～e の中から2つ選べ。

①頭蓋内にあるのはどれか。

- a. 下垂体 b. 甲状腺 c. 上皮小体 d. 松果体 e. 副腎

②結腸にないのはどれか。

- a. 半月ひだ b. 腹膜垂 c. 腸絨毛 d. 腸陰窩 e. 輪状ひだ

③後腹膜臓器はどれか。

- a. 肝臓 b. 十二指腸 c. 脾臓 d. 横行結腸 e. 腎臓

④外胚葉に由来するのはどれか。

- a. 網膜 b. 真皮 c. 蝸牛管 d. 表情筋 e. 膀胱上皮

⑤輪状軟骨の高さでの頸部横断面で観察可能なのはどれか。

- a. 鎖骨下静脈 b. 耳管 c. 舌神経 d. 迷走神経 e. 椎骨動脈

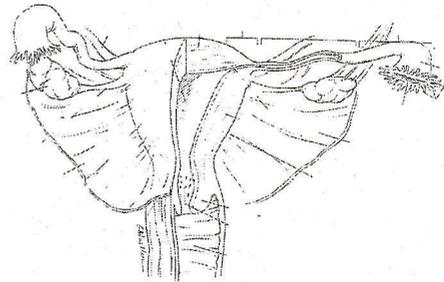
【3】 次の各文の下線部が正しければ○を記入し、誤っていれば下線部を修正せよ。

- ①解剖学的な会陰の定義では、その前端は外尿道口である。
- ②異なる毛細血管網の間を連絡する静脈を静脈叢と呼ぶ。
- ③網嚢は胎生期の左腹膜腔に由来する。
- ④トルコ鞍の両側にある硬膜静脈洞は下錐体静脈洞である。
- ⑤精巣上体管、精管、射精管はMüller管から分化する。
- ⑥皮下組織深層の厚い膜状の結合組織層を筋膜と呼ぶことがある。
- ⑦脊髄下端は第4腰椎の高さで終わる。
- ⑧喉頭筋は横膈神経に支配される。

【4】 次の構造を指定された色で着色せよ。

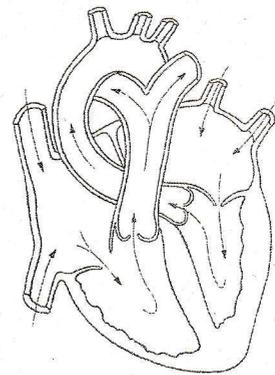
①女性生殖器（後面）である。

- ・固有卵巣索 → 赤
- ・子宮頸管 → 紺
- ・卵管采 → 黒



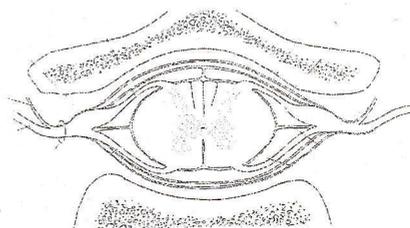
②心臓の内腔を示す。矢印は血流の方向を示す。

- ・僧帽弁 → 赤
- ・肺動脈弁 → 紺
- ・上大静脈 → 黒



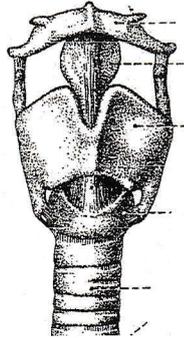
③脊柱管内の脊髄の断面を示す。

- ・脊髄神経節 → 赤
- ・クモ膜下腔 → 紺
- ・灰白質 → 黒

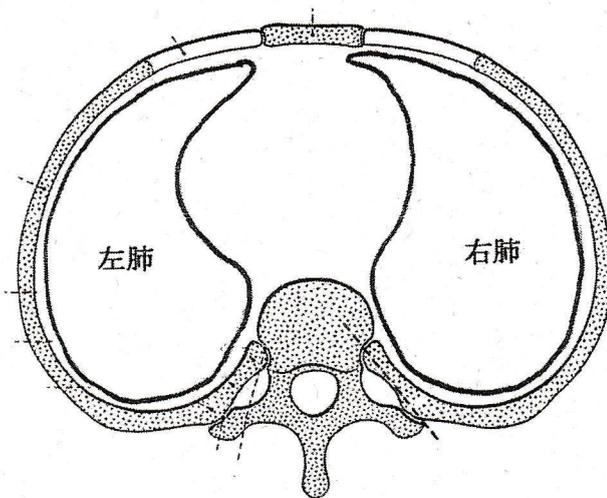


【5】指示にしたがって図を描け。

①気道の上半分を前から見た図である。気道の下半分(気管～主気管支～葉気管支)を続けて描け。



②胸部の水平断である。心臓(赤)、食道(紺)、胸腺(黒)を描け。臓器の輪郭のみでよい。



【6】次の語句を簡潔に説明せよ。図を用いることを推奨する。

- ①体節
- ②子宮広間膜
- ③精巣下降

【7】 次の各問に答えよ。

- ①フラッシュを使って撮影した写真で、時々、人の目が赤く写ることがある（赤眼）。この現象が起こる理由を説明せよ。
- ②消化管の中で、結腸（盲腸～上行結腸～横行結腸～下行結腸～S状結腸）が空・回腸より上方にあるのはなぜか？そのようになった発生学的な理由を説明せよ。

以上

一. 次の各問の答えを、a、b、c、d、eの中から1つ選べ。

① 椎骨について、誤っているのはどれか。

- a. 第1頸椎には椎体がない。
- b. 軸椎の椎体上面に歯突起がある。
- c. 胸椎の横突肋骨窩は肋骨頭と関節をつくる。
- d. 腰椎の椎間関節の関節面は矢状面に近い。
- e. 腰椎には肋骨突起がある。

② 誤っているのはどれか。

- a. 肋間神経は肋骨下縁の肋骨溝に沿って走る。
- b. 坐骨神経は大坐骨孔を通過する。
- c. 陰部神経は小坐骨孔を通過する。
- d. 総腓骨神経は腓骨頭の直下を通る。
- e. 脛骨神経は大腿骨の内側上顆のすぐ後ろを通過する。

③ 肘関節について、誤っているのはどれか。

- a. 肘関節を伸展すると、肘頭が肘頭窩に入る。
- b. 尺骨頭は橈骨頭と関節をつくる。
- c. 肘関節を屈曲すると、鈎突窩に鈎状突起が入る。
- d. 橈骨頭は上腕骨小頭と関節をつくる。
- e. 上腕骨滑車は尺骨の滑車切痕と関節をつくる。

④ 靭帯と骨の付着部について誤っているのはどれか。

- a. 後縦靭帯—脊柱管の前壁
- b. 膝蓋靭帯—脛骨粗面
- c. 腸骨大腿靭帯—転子間稜
- d. 大腿骨頭靭帯—寛骨臼切痕
- e. 橈骨輪状靭帯—尺骨の橈骨切痕

⑤ 頭蓋骨について誤っている組合せはどれか

- a. 側頭骨—茎状突起
- b. 蝶形骨—翼状突起
- c. 前頭骨—頬骨突起
- d. 下顎骨—筋突起
- e. 上顎骨—口蓋突起

⑥ 誤っているのはどれか。

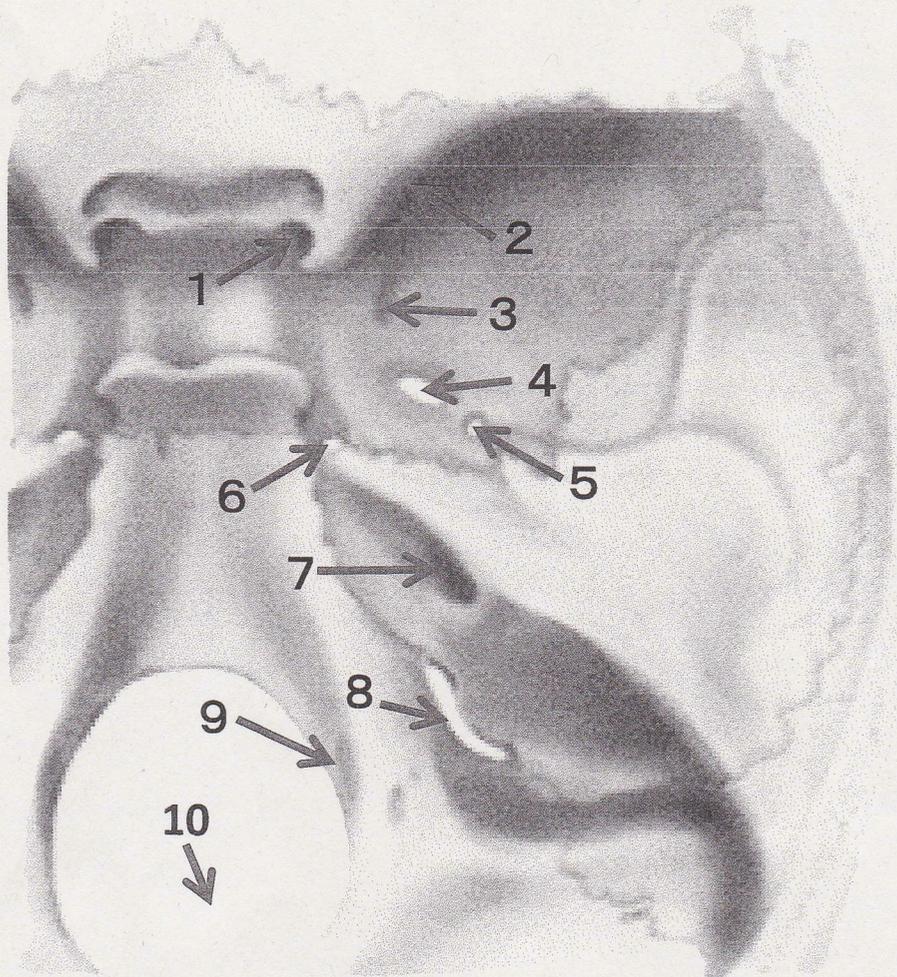
- a. 眼窩の下壁は主に蝶形骨により構成される。
- b. 舌骨は他の骨と関節をつくらない。

- c. 胸骨角は第4胸椎の下縁の高さにあたる。
 - d. 有頭骨は手根骨の遠位列のほぼ中央に位置する。
 - e. 内果より外果のほうが遠位にある。
- ⑦ 骨盤について誤っているのはどれか。
- a. 男性の恥骨下角は約 90° である。
 - b. 女性の仙骨は短くて幅が広い。
 - c. 骨盤の分界線は岬角より弓状線と恥骨櫛を経て恥骨結合上縁に至る線である。
 - d. 仙骨の正中仙骨稜は他の椎骨の棘突起に相当する。
 - e. 左右両側の腸骨稜の頂点を結ぶ線は、ほぼ第4腰椎の高さを通る。
- ⑧ 腎臓について誤っているのはどれか。
- a. 腎臓は腹膜後器官である。
 - b. 腎臓は副腎とともに共通の線維被膜で包まれる。
 - c. 腎門では、腹側から背側に向かって腎静脈、腎動脈、尿管の順に並ぶ。
 - d. 右腎臓は十二指腸に接する。
 - e. 左腎臓は脾臓に接する。
- ⑨ 前立腺について誤っているのはどれか。
- a. 前立腺は膀胱の直下に存在し、尿生殖隔膜の上方に位置する。
 - b. 前立腺の後面は直腸に接する。
 - c. 尿道は前立腺のほぼ中央を貫く。
 - d. 前立腺は腹膜に覆われる。
 - e. 前立腺導管は尿道に開口する。
- ⑩ 誤っているのはどれか。
- a. 尿道球腺は尿生殖隔膜内にある。
 - b. 射精管は尿道の前立腺部に開口する。
 - c. 外尿道括約筋は随意筋である。
 - d. 陰囊の内精筋膜は横筋筋膜の延長である。
 - e. 精囊の導管は膀胱に開口する。

二. プテリオンについて簡潔に説明せよ。

三. 膝関節の前十字靭帯と後十字靭帯の位置関係がわかるように、前十字靭帯を赤で、後十字靭帯を黒で描け。

四. 尿管と交差して走行するすべての構造物の名称を記せ。



五. 上図は内頭蓋底の一部を示す。

以下の設問に対し上図から数字で答えよ。

- 1) 椎骨動脈の通路 ()
- 2) 内頸静脈の通路 ()
- 3) 顔面神経の通路 ()

平成 26 年度 人体構造学コース (マクロ編) 試験

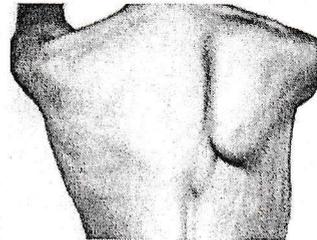
(出題: 早川大輔)

I 問 1~28 について、各問に対する答えを a~e より選び、解答用紙の解答欄に記入せよ。
ただし、記入する選択肢は 1つまたは2つ であり、各問にその数は示されていない。

1. 正しいのはどれか。
- a. 大胸筋の鎖骨部線維は、胸肋部線維の深側を走行して上腕骨に停止する。
 - b. 小胸筋は第 1~3 肋骨から起こり、烏口突起に停止する。
 - c. 小胸筋と胸郭との間を腋窩動脈、腋窩静脈、腕神経叢が走行する。
 - d. 鎖骨下筋は鎖骨下面から起始し、第 1 肋骨に停止する。
 - e. 肩甲下筋の支配神経は腕神経叢の内側神経束から起こる。

2. 正しいのはどれか。
- a. 外肋間筋は上下の肋軟骨間で発達が著しい。
 - b. 外肋間筋と内肋間筋の間を肋間動脈、肋間静脈、肋間神経が走行する。
 - c. 肋下筋は第 1、第 2 腰椎から起こり、第 12 肋骨に停止する。
 - d. 胸横筋は前胸壁の内面にあり、胸骨から起こって外側上方に走る。
 - e. 肋骨挙筋は脊柱起立筋の前方に位置し、肋間神経に支配される。

3. 右図に示す症状はどの神経の損傷によって起こるか。
- a. 肩甲上神経
 - b. 肩甲下神経
 - c. 腋窩神経
 - d. 肩甲背神経
 - e. 長胸神経



4. 正しいのはどれか。
- a. 横隔膜腰椎部の外側弓状靭帯の下を大腰筋が通る。
 - b. 横隔膜は腰肋三角の部で筋が発達して厚い。
 - c. 横隔膜の正中弓状靭帯により腹腔動脈基部が圧迫されることがある。
 - d. 食道裂孔は大動脈裂孔に対して右前上方に位置する。
 - e. 左胃動脈の枝が食道裂孔を通過して胸腔内に達する。
5. 正しいのはどれか。
- a. 腹直筋の腱画は腹直筋鞘の前葉および後葉と強く結合する。。
 - b. 腹直筋鞘の外側縁に相当する線を半月線という。
 - c. 肋間神経、肋下神経、腸骨下腹神経は外腹斜筋と内腹斜筋の間を走行する。
 - d. 精索は外腹斜筋の内側脚と外側脚との間で脚間線維の上方を通る。
 - e. 外腹斜筋の腱膜と内腹斜筋の腱膜は合して結合腱 (鼠径鎌) をなし、恥骨楯に付く。
6. 誤っているのはどれか。
- a. 僧帽筋の下部線維は肩甲骨の関節窩を下方に向ける作用を有する。
 - b. 僧帽筋は副神経の脊髄根に由来する外枝に支配される。
 - c. 広背筋は腕神経叢の後神経束から起こる胸背神経に支配される。
 - d. 肩甲挙筋は頸横動脈と上行頸動脈の枝による血液供給を受ける。
 - e. 菱形筋は肩甲骨の関節窩を上方に向ける作用を有する。
7. 正しいのはどれか。
- a. 頸板状筋は下位頸椎の棘突起から起こり、上位頸椎の横突起に停止する。
 - b. 腸肋筋の一部には肋骨から起こり肋骨に停止する筋束がある。
 - c. 頭最長筋は頸板状筋の停止部より内側の部に停止する。
 - d. 半棘筋は腰部で特に発達しており、脊柱の腰部前彎の形成に関与する。
 - e. 多裂筋は横突筋群のうち最も深層に位置し、頸部で最も発達している。

8. 正しいのはどれか。
- 三角筋は内側腋窩隙を通る神経に支配され、肩甲回旋動脈の枝により血液供給を受ける。
 - 棘上筋は肩峰の下を通り、肩関節包との間に滑液包を有する。
 - 棘下筋は上腕骨の大結節に停止し、肩関節の内旋をおこなう。
 - 大円筋は広背筋とともに上腕骨の小結節に停止し、肩甲下神経に支配される。
 - 前腋窩ヒダは大胸筋の下縁により、後腋窩ヒダは大円筋の下縁により形成される。
9. 正しいのはどれか。
- 尺側皮静脈は内側（上腕）二頭筋溝を走り、この中部で深くもぐって上腕静脈に注ぐ。
 - 前腕の回外位で上腕二頭筋が収縮すると、これを回内して元に復する作用がみられる。
 - 筋皮神経は上腕屈筋群に枝を出した後、前腕に達して内側前腕皮神経となる。
 - 上腕三頭筋の外側頭の深部を上腕深動脈が橈骨神経溝に沿って走る。
 - 上腕三頭筋の外側頭により、内側腋窩隙と外側腋窩隙が区画される。
10. 正しいのはどれか。
- 肘筋は上腕骨の内側上顆から起こり、橈骨に停止する。
 - 円回内筋の尺骨頭は上腕頭の深層にあり、通常、両頭の間を正中神経が通る。
 - 尺骨動脈は前腕遠位部で尺側手根屈筋腱の内側に沿って走り、手に至る。
 - 長母指屈筋は橈骨および前腕骨間膜前面から起こり、母指の末節骨に停止する。
 - 方形回内筋は前骨間動脈の深層に位置し、前骨間神経に支配される。
11. 正しいのはどれか。
- 腕橈骨筋の起始近くの深層で橈骨神経が浅枝と深枝に分岐する。
 - 長橈側手根伸筋は第3中手骨底に、短橈側手根伸筋は第2中手骨底に停止する。
 - 回外筋の上腕頭と尺骨頭の間を橈骨神経浅枝が走り、尺骨頭の深部を橈骨神経深枝が走る。
 - 長母指外転筋は前腕の遠位部で総指伸筋と短橈側手根伸筋の間を通る。
 - 小指伸筋腱は総指伸筋とともに伸筋支帯によってつくられる第4腱区画を通る。
12. 正しいのはどれか。
- 短母指外転筋と短母指屈筋は、ともに正中神経の手掌枝に支配される。
 - 母指内転筋の横頭と斜頭の間を通過して橈骨動脈の終枝が内側に向かい、深掌動脈弓を形成する。
 - 小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋は、いずれも尺骨神経の深枝に支配される。
 - 虫様筋はMP関節における伸展、IP関節における屈曲をおこなう。
 - 掌側骨間筋は深横中手靭帯の掌側に4つあり、指の内転に関与する。
13. 正しいのはどれか。
- 大腰筋は筋裂孔において腸骨筋の外側に位置する。
 - 腸骨筋は大腿神経に支配され、股関節における屈曲運動をおこなう。
 - 大殿筋と大腿筋膜張筋は、ともに上殿神経に支配され、腸脛靭帯を緊張させる。
 - 中殿筋・小殿筋の麻痺により、トレンデレンブルグ徴候が陰性となる。
 - 内閉鎖筋と外閉鎖筋は、ともに股関節の外旋をおこなうが、前者は内転、後者は外転もおこなう。
14. 正しいのはどれか。
- 縫工筋の停止部は、薄筋、半膜様筋の停止部とともに鷲足を形成する。
 - 膝蓋腱反射の中樞は脊髄のL2～L4分節にある。
 - 膝関節筋は中間広筋の分束で、膝蓋骨に付着する。
 - 恥骨筋は大腿神経に支配され、恥骨筋線に停止する。
 - 大内転筋を大腿深動脈の枝である貫通動脈が貫いて大腿後部に向かう。
15. 誤っているのはどれか。
- 大腿二頭筋の長頭は総腓骨神経の枝に、短頭は脛骨神経の枝に支配される。
 - 膝窩筋は大腿骨の内側上顆から起こり外側下方に斜走する。
 - 前脛骨筋は内側縦足弓の保持に重要な役割を果たす。
 - 膝窩動脈は脛骨神経とともにヒラメ筋腱弓をくぐった後に前脛骨動脈と後脛骨動脈に分岐する。
 - 第三腓骨筋は浅腓骨神経に、短腓骨筋は深腓骨神経に支配される。

16. 正しいのはどれか。
- 上腓骨筋支帯の深部を通過する際、短腓骨筋腱は長腓骨筋腱より後方に位置する。
 - 屈筋支帯の深部を通過する際、長母指（趾）屈筋腱は脛骨神経の前内側に位置する。
 - 上伸筋支帯の深部を通過する際、長母指（趾）伸筋腱の内側に前脛骨動脈が位置する。
 - アキレス腱反射の中樞は脊髄のS3～S4分節にある。
 - 後脛骨筋は脛骨神経に支配され、足の外反および底屈をおこなう。
17. 正しいのはどれか。
- 胸鎖乳突筋の表面は頸筋膜浅葉におおわれ、裏面は気管前葉におおわれる。
 - 頸横動脈は頸横神経に伴行し、胸鎖乳突筋の前を横切って走る。
 - 胸鎖乳突筋、僧帽筋、肩甲舌骨筋下腹で囲まれる三角の領域を後頭三角という。
 - 茎突舌骨筋は胎生期の第2鰓弓に由来し、顎舌骨筋は第1鰓弓に由来する。
 - 胸骨舌骨筋は胸骨柄の前面から起こり、甲状軟骨板の斜線に停止する。
18. 正しいのはどれか。
- 前斜角筋、中斜角筋、後斜角筋はいずれも頸筋膜前葉と椎前葉の間に位置する。
 - 中斜角筋は、第1肋骨の鎖骨下静脈溝と鎖骨下動脈溝の間に停止する。
 - 肩甲上動脈は前斜角筋の前方を走行して外側に向かう。
 - 頭長筋は上位頸神経の前枝に支配され、後頭骨に停止する。
 - 外側頭直筋は軸椎の横突起から起こり、後頭骨に停止する。
19. 正しいのはどれか。
- 広頸筋は主に顔面神経の下顎縁枝に支配される。
 - 頬筋の上縁の直上で耳下腺管が頬粘膜を貫いて口腔に至る。
 - 大頬骨筋は小頬骨筋の内側に位置し、内側上方から外側下方に走る。
 - 側頭筋は下顎神経の枝である頬骨側頭神経に支配される。
 - 内側翼突筋は蝶下顎靭帯の深層に位置する。
20. 誤っているのはどれか。
- 右肺動脈は上行大動脈と上大静脈の後方を右に向かって走り、右肺に至る。
 - 左反回神経は大動脈弓の下を前方から後方に向かってくぐり、大動脈弓の内側を上方へ向かう。
 - 頸動脈分岐部において、総頸動脈から外頸動脈基部にかけて圧受容器のある頸動脈洞が存在する。
 - 総頸動脈は内頸静脈および迷走神経とともに頸動脈鞘に包まれる。
 - 左腕頭静脈はほぼ垂直に下行し、正中線を越えて左に斜走した右腕頭静脈と合して上大静脈となる。
21. 誤っているのはどれか。
- 上甲状腺動脈、舌動脈、後頭動脈はいずれも外頸動脈から起こる枝である。
 - 内胸動脈は前肋間動脈、胸腺への枝などを出し、上腹壁動脈と筋横隔動脈の2終枝に分かれる。
 - 左右の椎骨動脈は頸静脈孔から頭蓋内に入り、合して脳底動脈となって前脊髄動脈などの枝を出す。
 - 外側胸動脈は腋窩動脈から起こり、前鋸筋に分布するほか、特に女性では乳腺に枝を与える。
 - 肩関節を栄養する主要な動脈は、腋窩動脈から起こる肩甲回旋動脈の枝である。
22. 正しいのはどれか。
- 上腕深動脈は中側副動脈と橈側側副動脈の2終枝に分かれ、両者は肘関節動脈網の形成に加わる。
 - 総骨間動脈は橈骨動脈から起こり、前および後骨間動脈に分かれる。
 - 尺骨動脈から橈側反回動脈と尺側反回動脈が起こり、両者は肘関節動脈網の形成に加わる。
 - 橈骨動脈は解剖学的タボツボの深部を走行し、第1背側骨間筋の2頭の間を通過して手掌に向かう。
 - 浅掌動脈弓は尺骨動脈の終枝であり、通常4本の総掌側指動脈を分枝する。

23. 誤っているのはどれか。
- 下横隔動脈は腹大動脈または腹腔動脈から起こり、複数本の上副腎動脈を分枝する。
 - 上脛十二指腸動脈は胃十二指腸動脈から起こり、上腸間膜動脈の枝である下脛十二指腸動脈と脛頭部において吻合する。
 - 胆嚢動脈は、通常、固有肝動脈から起こる。
 - 虫垂動脈は通常、右結腸動脈から起こり、回腸の末端部の後方を下行して虫垂に至る。
 - 上直腸動脈は下腸間膜動脈の終枝で、中直腸動脈および下直腸動脈と吻合する。
24. 正しいのはどれか。
- 左腎動脈は右腎動脈よりも長く、左副腎への中副腎動脈を分枝する。
 - 左腎静脈は上腸間膜動脈の後方を走行し、左副腎静脈を受け入れる。
 - 卵巢動脈は腹大動脈から起こり、固有卵巢索の中を通過して卵巢に達する。
 - 腰動脈は通常4対あり、腹壁の筋に分布するほか、脊髄を栄養する枝を出す。
 - 右精巣動脈は腹大動脈から起こり、下大静脈の前を横切って尿管の後方を斜走する。
25. 正しいのはどれか。
- 外側仙骨動脈は通常片側に2本あり、前仙骨孔を通過して仙骨管内に達する。
 - 成人において、臍動脈は下膀胱動脈を分枝した後に臍動脈索となる。
 - 閉鎖動脈は閉鎖神経とともに、閉鎖膜の後下方に位置する閉鎖管を通過して骨盤腔の外に出る。
 - 内陰部動脈は小坐骨孔を通過した後、陰部神経管内を走り、外陰部動脈となる。
 - 男性において、会陰動脈は陰茎に至って陰茎深動脈と陰茎背動脈に分岐する。
26. 正しいのはどれか。
- 下腹壁動脈は大腿動脈から起こって腹直筋鞘内に入り、上腹壁動脈と吻合する。
 - 深腸骨回旋動脈は大腿動脈から起こって上前腸骨棘の方へ向かい、浅腸骨回旋動脈と吻合する。
 - 内側大腿回旋動脈は大腿動脈または大腿深動脈から起こり、腸腰筋と恥骨筋の間を深層へ向かう。
 - 大腿動脈と伏在神経は、ともに内転筋管を通過して大内転筋裂孔から膝窩に至る。
 - 下行膝動脈は大腿動脈から起こり、大腿の外側を下行して膝関節動脈網の構成に加わる。
27. 誤っているのはどれか。
- 前脛骨動脈は下脛骨間膜の上部の間隙を後方から前方にくぐり抜け、前脛骨反回動脈を出す。
 - 腓骨動脈は後脛骨動脈の起始部近くで起こり、腓骨の後縁に沿って下行する。
 - 内側足底動脈は後脛骨動脈から起こり、外側足底動脈は腓骨動脈から起こる。
 - 弓状動脈は足背動脈から起こり、背側中足動脈を分枝する。
 - 足背静脈網の内側部から小伏在静脈が起こり、内果の後方を通過して下腿の背面に向かう。
28. 誤っているのはどれか。
- 左右の腰リンパ本幹と腸リンパ本幹がおよそ第4腰椎の前で合流し、乳び槽を形成する。
 - 胸管はおよそ第5胸椎の高さで食道の前方から左方に走り、左椎骨動脈の後方を通る。
 - 肺のリンパは気管支支リンパ節から気管支縦隔リンパ本幹を経て、胸管または右リンパ本幹に注ぐ。
 - 乳房の内側部のリンパは胸骨旁リンパ節に注ぎ、外側部のリンパは腋窩リンパ節に注ぐ。
 - 浅鼠径リンパ節には自由下肢の皮膚からのリンパのほか、会陰のリンパも注ぐ。

II 文章中の空欄（ 1 ）～（ 10 ）に当てはまる適切な語を記せ。

- ① （ 1 ）筋、（ 2 ）筋、（ 3 ）筋で囲まれる三角形の部を後頭下三角といい、第1頸神経後枝である（ 4 ）神経がこの三角を通してこれらの筋を支配する。第2頸神経の後枝である（ 5 ）神経はこの三角の下縁の筋を回って上行し、後頭部の皮膚に分布する。
- ② 鼠径靭帯と寛骨との間の間隙は、（ 6 ）によって筋裂孔と血管裂孔とに区分される。血管裂孔の内側部には抵抗の弱い（ 7 ）と呼ばれる部があり、腹圧が高まった際に、ここから腸間膜などの腹腔内容が脱出することがある。これを大腿ヘルニアというが、ヘルニア内容は（ 7 ）から（ 8 ）に至る大腿管を通り、大腿前面に至ることがある。
- ③ 門脈は（ 9 ）静脈と（ 10 ）静脈が合して形成され、その合流部の直前に（ 10 ）静脈に下腸間膜静脈が合流する。食道静脈は（ 11 ）静脈に注ぎ、左胃静脈は門脈に注ぐが、食道下部においてこれらの静脈の間に門脈-体循環系吻合が形成される。門脈圧が亢進すると、胃食道接合部付近に食道静脈瘤が発生することがある。同様に、上直腸静脈は（ 12 ）静脈を経て門脈に注ぎ、中直腸静脈および下直腸静脈は（ 13 ）静脈を経て下大静脈に注ぐが、これらの静脈に吻合が形成されるため、門脈圧が亢進すると、直腸に静脈瘤が発生することがある。

III 解剖実習を省みて、早川が6月4日に行った最終講義の冒頭に話した内容に対する自らの考え・意見を400～500字で述べよ。

及ん終了時